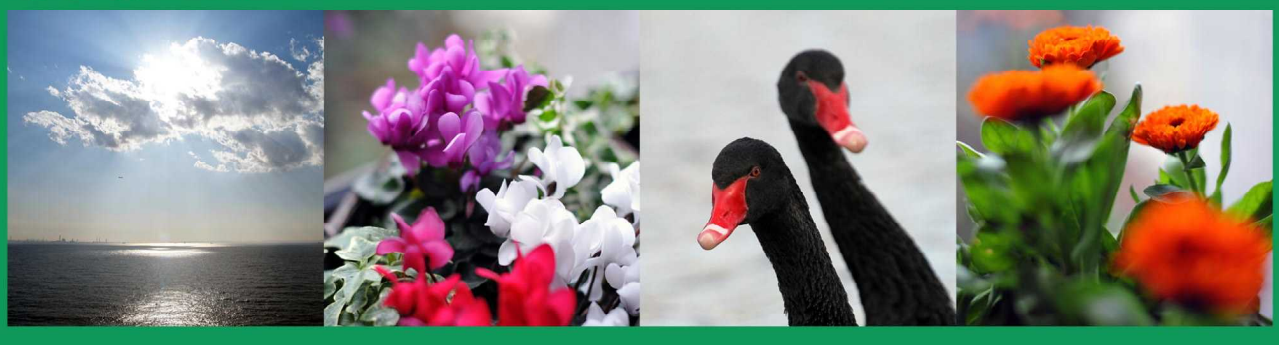
http://decfamily.p1.bindsite.jp/2017/

We 25R

No.334　18/01/25



来年の今ごろ

明日は推薦受験。このクラスの中にも２年前のことを思い出す人もいるだろう。逆に言うと、あれからもう２年経ったということでもある。早かった？　それともずいぶん昔のことのように感じられるのだろうか。

これから１年後のちょうど今ごろは、国公立大学の２次試験への出願を迎えている。センター試験がうまくいった人は、当初の志望通り、何の迷いもなく出願することができるわけだが、ちょっと失敗してしまったという人にとっては、この出願先選びがまず第一の関門になる。センター試験がうまくいった人は、すぐに二次試験に向けての準備が可能になるが、失敗してしまった人は、新たな出願先の選択にも時間を取られることになる。
つまり、センター試験の結果は、受験生の未来にとってかなり重大な意味を持っているということだ。そして、センター試験はどの大学も概して科目が多めである。だから、苦手科目が重要な意味を持ってきたりする。そのことをもう一度確認して、今の自分の勉強や、これからの自分の勉強の計画に生かしてほしい。

＊

センターを終えた３年生は、二次試験に向けて個別添削指導に入っている。国語科では、以前は３年生の授業を担当している先生方で分担して指導していたのだが、添削希望者が増えるとともに、とてもそれだけでは対処しきれなくなったこともあり、今では全員で分担して指導にあたっている。そのため、各先生ごとに担当の大学・学部を決めて、その大学・学部専門の指導をしている。ちなみに、今年は私は「古文・漢文全部」の係で、全国公立・私立大学の古文・漢文問題の添削に当たっている。大変である…。

ちなみに、昨年教えていただいたＴ畑先生は一橋大担当、Ｏ塚先生は慶応大（文・法）の担当、そして、今年現代文を教えていただいているＴ上先生には、医学部・看護系の小論文をご担当いただいている。ただし、我々の研修の意味も込めて、毎年担当大学を変えているので、来年はまた別の先生がご担当になることだろう。

この添削は、何も国語科だけではなく、どの教科でも実施している。他教科は、基本的には授業を担当している先生にお願いすることになるようだ。授業を担当していれば、その生徒の日常の様子や、定期考査の答案の書き方なども分かっていらっしゃるので、指導にもそれが生かされるに違いない。こういう木目の細かな指導ができるところが、予備校などとの大きな違いだろう。添削に疑問があった時には、すぐにそれを確認にいけるというのもメリットである。

授業担当とは限らない国語科でも、添削をしながら「この生徒がこういう書き方をしていますが、いつもはどうですか？」とか、「この生徒の発想は～～の方向に行きがちなのですが、授業中はどうでしょう？」とか、果ては「この生徒のこの字が読めないんですけど（笑）」といった情報の共有が日常的になされているので、今まで習ったことのない先生が志望大学のご担当になったからといって、まったく心配する必要はない。

というわけで、来年の今ごろ、諸君はどんな受験生活を送っているのだろう…